



第 50 号

2019 年 3 月 31 日



埼玉県合唱連盟

〒330-8557 さいたま市浦和区常盤4-12-13

(朝日新聞さいたま総局内)

TEL 048-824-8161

FAX 048-831-5310

<http://saicl.net/>

～心がひとつになった時 想いが伝わる～

# 第71回 全日本合唱コンクール全国大会

2018年10月27日(土)・28日(日) 高等学校部門(A・B)、中学校部門(混声・同声)

於：長野県長野市／長野県県民文化会館ホクト文化ホール

11月24日(土)・25日(日) 大学職場一般部門(大学ユース・室内・同声・混声)

於：北海道札幌市／札幌コンサートホールkitara

## 【高等学校部門Bグループ】

### 松山女子高等学校音楽部

部長 三瓶 あずさ

私達は、今回で5度目となる全日本合唱コンクール全国大会に出場し、金賞および長野県教育委員会賞を受賞しました。部員全員で全国の舞台に立てたこと、そして、このような賞をいただけたことをたいへん嬉しく思っています。慣れない空間、耳に飛び込んでくる各地の方言に緊張感を覚えながらも、



金賞・長野県教育委員会賞・カワイ出版賞

入場から退場まであっという間に過ぎていったように感じられました。

先輩方からこの部を引き継ぎ、頼りにしていた先輩方のいないステージで松女らしい演奏を届けるためにはどうしたらいいのかなど、私たちはたくさん話し合いを重ねてきました。本番当日が近づいても、必要だと思ったら練習の時間を削って話し合いをすることもありました。そこで、私たちはたくさんの方のアドバイスをもらいました。そして本番では皆、思い切り楽しんで最高の笑顔で演奏することができました。楽しいときも辛いときも仲間たちとともに乗り越えてきたからこそ生み出せる音楽があるのだと、今大会を通して改めて実感しました。全員がレギュラーで同じステージに立って同じ曲を演奏する、この上ない特別な経験をさせてくれた音楽部、そして部員の一人ひとりに感謝しています。

今後とも、私たちの活動を応援していただけたら嬉しいです。応援して下さる全ての方々への感謝の気持ちを胸に、これからも練習に励んで参ります。



## ～第71回全日本合唱コンクール全国大会～

### 【高等学校部門Bグループ】

#### 浦和高等学校グリークラブ

部長 堀 圭 吾

昨年10月下旬、我々「浦高グリー」は長野県のホクト文化ホールにて開催されました第71回全日本合唱コンクール全国大会に出場し、銀賞を受賞しました。浦高グリーとしては2年連続4回目となる全国の舞台。自由曲には、68回大会でも演奏した「青いメッセージ」より「ごびらっふの独白」、課題曲には同じ組曲の「秋の夜の会話」を選曲して臨みました。

いざ、舞台に立つてみると会場は満員。大音量の拍手に迎えられいよいよ演奏が始まります。「さむいね」という印象的なフレーズから始まる「秋の夜の会話」。「ごびらっふ」という1匹の蛙が主人公となり、その独白とともに様々な描写のなされる「ごびらっふの独白」。どちらも「蛙の詩人」と言われた詩人・草野心平の世界をホールに作り出せたと感じました。

我々はこれからも、全国の皆様に男声合唱の魅力を余すところなく提供していきたいと考えております。皆様のご声援どうぞよろしくお願いいたします。



銀 賞

#### 浦和第一女子高等学校音楽部

部長 門 珠 衣

昨年の全国大会では、課題曲でF3 麦藁帽子を、自由曲で「Ahuszta」を演奏いたしました。

昨年度のスローガンの“希求しうろどる者であれ”に込めた想い、「最後の最後までより良いものを求め続け、ホールを一女の色に染め上げる」を胸に抱いて臨んだ全国大会は、自分達のやりたいことを出し切り、清々しい気持ちで終わることができました。

全国大会では、この場限りの特別な雰囲気を感じ、他校さんの演奏に多く刺激を受ける中で、自分達がこの場にいてこのことができる幸せを感じることができました。日々の練習の積み重ねから生まれる達成感や、歌う楽しさや喜び、全国から集まった合唱好きな仲間と共有する時間は、かけがえないものでした。

日々支えてくださる周りの方々、音楽を共にする仲間への感謝を忘れず、昨年培ったもの、また、全国大会を経て気づけた今後の課題を糧に、今年も更なる向上に励んで参ります。今後とも浦和一女音楽部を宜しくお願いします。



銀 賞

### 【中学校部門 混声合唱の部】

#### 春日部市立武里中学校音楽部

部長 櫻井 柚 希

あのホールで一つの音楽を創り上げ全員で歌い切ったあの瞬間、私達の心に湧き上がってきた達成感とあふれるほどの感謝の思い。その瞬間を今でも覚えています。

2018年4月、前年度の顧問の先生の異動により新しい顧問の先生のもと、私達の春は始まりました。今まで通りにできないことへの不安と感いでいっぱいでした。でも、その環境の変化があったからこそ、私達は成長できたのだと思っています。お忙しい顧問の先生と合わせられる貴重な時間をより大切にしながら、それ以外の時間を使って今まで以上に自分達から音楽を創っていくようになりました。

そして迎えた2度目の全国大会。あの金色の盾を頂いて、ステージから斜め下の客席にいる仲間達の笑顔を見て、言葉にならない感動が胸に押し寄せてきました。

最後に、今まで私達のことを支えてきてくださった全ての方々、本当にありがとうございました。

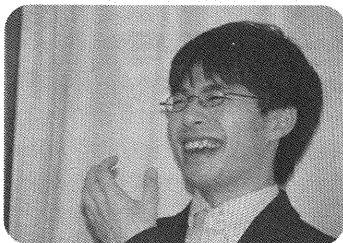


金 賞

撮影：㈱大阪フォトサービス



## 川浦義広さんに聞く



川浦先生は埼玉県ふじみ野市在住の26歳。生まれも育ちも埼玉県。御勤め先も埼玉県です。

将来有望な若手作曲家に地元である埼玉県合唱連盟がコンタクトをとらせていただきました。

そのお人柄や、作曲家としての矜持、合唱に対する想いなどを伺ってまいりました。

佐々木)

本日はお忙しいところインタビューにご協力いただき誠にありがとうございます。

川浦先生) 以下敬称略

埼玉県合唱連盟から取材のお話をいただきとても光栄です。

佐々木)

1月に開催されたSVECを聴きにいられていたと伺いましたが?

川浦)

埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテストで埼玉栄高校から委嘱していただいた私の曲が演奏されました。これまで、「現代音楽」というカテゴリーで作曲活動をおこなってまいりましたが、演奏会場で作品が聴衆に暖かく受け入れられることは稀だったのです。しかし、熊谷で私の作品が演奏されたあの時あの会場で、確かに埼玉の皆さんは私の音楽を受け入れてくださった。そう強く感じました。演奏が始まり、会場の空気が変化したあの瞬間を私は忘れないと思います。

佐々木)

川浦作品が持つ音楽の美しさは、今までに耳にしてきた合唱作品のそれとは違いました。強いオリジナリティを感じたのです。合唱曲を書くにあたり大事にされていることはありますか?

川浦)

独唱曲や器楽曲に置き換えが可能な作品は書かないよう心掛けています。合唱作品としての必然性、合唱という形式でなければ表現できない曲を生み出さなければならないと思っています。そして私達の世代の作曲家が、今までにない新しい合唱作品を生み出していかなければならないという使命感も強く持っています。

佐々木)

先生と音楽との出会いをお聞かせください。

川浦)

幼少期からの音楽教育は受けておりません。音楽的な環境としては家にアップライトピアノがあったくらいです。小学生の時にNHKのコンクールで演奏された三善晃先生の作品に強い衝撃を受け、魅了され、音楽そして合唱に興味を持つようになりました。ピアノを習いはじめたのは中学生になってからです。

進学した高校では理系の選抜クラスに席を置きました。勉強時間の確保が必須だったので、ピアノを練習する時間が取れません。ピアノレッスンは休止せざるをえませんでした。学校には合唱部が無かったので、音楽とは距離を置く3年間になってしまいました。それでも時間のある時にピアノで作曲をしたり...作曲の勉強はしていなかったのですが、我流ではありましたが、そういえば、31年度の課題曲となる「鶯のうへ」は高校1年生の国語の教科書に載っていた詩でした。おぼろげながら「この三好達治の詩を合唱作品にして、20代で朝日作曲賞をとろう」と考えていました。

佐々木)

それは凄い!それは将来の夢というよりも、成就すべき目標だったのですよね?しかし、ここまでの話だと音楽の道を志してはいないようですが...

川浦)

高校3年のとき、自分が進みたいのは本当に理系大学なのか?理系の道なのか?と熟考しました。その結果、私が本当に進みたいのは音楽の道だということに気付いたのです。そこで音楽大学を受験し

## ~若い豊かな感性に包まれました~

たいと親に相談しました。将来は作曲家になりたいと。

佐々木)

理系の進学クラスから音大受験?もちろん親御さんは反対されましたよね?

川浦)

いえ、親は理解を示してくれたのです。しかし、条件があると言われました。それは特待制度がある大学を探すこと。「特待生として合格できるならば、少しは才能がある証でしょうから、その道で生きていける可能性がある」と考えたようです。そこで特待制度のある尚美学園大学を受験しました。

佐々木)

尚美学園の作曲科に特待生として入学されました。大学4年間を振り返ると?

川浦)

4年間の学びのなかで私が最も幸運だと感じたのは、多くの優れた先生に出会えたことです。皆さんが全力で私を導いてくださり、技法だけではなく音楽家として必要な多くのことを教えて下さいました。

佐々木)

そして、才能と運に恵まれながら、大きな努力が実を結び、朝日作曲賞を受賞下さいました。これから「売れっ子」になられる。全国から委嘱の申し出が殺到するなかで埼玉合唱連盟のことをお忘れにならないでくださいませ。

川浦)

埼玉県合唱連盟の皆様と共に歩ませていただきたい。「埼玉ファースト」でまいります。

佐々木)

最後に今年の課題曲『雪』について、お話しくださいませんか?

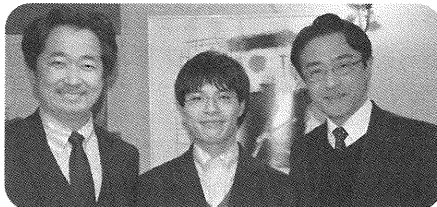
川浦)

この度、第72回全日本合唱コンクールの課題曲(G4)となりました『雪』は、詩の持っている空間や時間・質感をいかに音楽的に展開するかを試みた作品です。三好達治の詩には、描かれている情景や人と作者の間に独特の「隔たり」があり、言葉と言葉の間から「孤独」がにじみ出てくるような感覚があります。

そうした、三好の詩の空間性を音楽的に扱うために、『雪』では特に歌われる言葉の「聴こえ方」や「距離」に焦点を当てています。同じ言葉であっても「音」として扱ってみたり、他者に伝える「ことば」として扱ってみたり、ズレながら言葉を発音することで立体的な音空間を作ったあたかも雪が「ふりつむ」情景を作り出してみたり...と、合唱だからこそなし得る言葉への様々なアプローチを行いました。複数人で言葉を「共有」し、その距離感を感じることができるといことも合唱という表現媒体の大きな魅力の1つであると私は感じています。

佐々木)

今年の8月、埼玉県大会で多くの団体により『雪』が演奏されることでしょう。もちろん全国各地でも。様々な『雪』に出会えること楽しみにしております。本日はお忙しいところ、長時間お付き合いくださしまして誠にありがとうございました!



左から 佐々木理事、川浦先生、浅子理事



インタビュー: 理事 佐々木憲二

撮影: 埼玉県合唱連盟



## ハーモニーのつぼみ～そしてどこまでも広がって！～ 第 30 回

# 埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト

2019年1月19日(土) 小学校の部・中学校の部

26日(土) 高等学校の部①・ユースの部

27日(日) ジュニアの部・高等学校の部②・レディーの部・一般の部

於：熊谷文化創造館 さくらめいと

今年も7部門135団体（インフルエンザで残念ながら棄権された2団体あり）の参加のもと、3日間のコンテストを無事終了することが出来ました。どの部門も熱のこもった演奏が続きましたが、特に一般の部は全体のレベルがアップした印象を持ちました。

また、今回から小学校の部を設けましたが1団体のみの参加にとどまり、連盟として今後一層の取り組みが必要だと感じております。

次年度に向けてとして、「このコンテストならではの選曲を。」と、審査員の先生からの講評にもありましたが、指導される先生方をはじめ、各団でぜひご一考いただければと思っております。

また、変更して2年間行いました審査方法については、小委員会等でさらに検討を重ね、より良い方法にしていこう必要があると思っております。

今後もこのコンテストが夏のコンクールとは違った



大会としてあり続けるための方策を探りながら、アンサンブルを学ぶ場として、各団体の一層のレベルアップを図る場となるようにして参りたいと思っております。

来年度も多くの団体の出演をお待ちしております。

（常務理事 國弘雅也）

## 第8回 関東ヴォーカルアンサンブルコンテスト審査結果

2019年3月9日(土) 高等学校部門

10日(日) 小学校・中学校部門、一般部門

於：茨城県水戸市／茨城県立県民文化センター

### 高等学校部門

【金賞】 埼玉県立川越女子高等学校音楽部、埼玉県立伊奈学園総合高等学校音楽部A、  
埼玉県立伊奈学園総合高等学校音楽部B、星野高等学校音楽部A、  
星野高等学校音楽部B、埼玉県立熊谷女子高等学校音楽部、栄東高等学校コーラス部

### 小学校・中学校部門

【金賞】 さいたま市立宮原中学校合唱団、所沢市立向陽中学校コーラス部、星野学園中学校音楽部  
【銀賞】 春日部市立武里中学校音楽部、所沢市立所沢中学校

### 一般部門

【金賞】 Utabonne  
【銀賞】 voces kunel、男声合唱団APERTASS  
【銅賞】 春日部ジュニアコーラス







お話しかせてください!

## 菅野正美先生インタビュー

〈菅野正美先生〉

「福島県立安積女子高等学校」(現福島県立安積黎明高等学校)を全日本合唱コンクール12年連続全国大会金賞、そのうち文部科学大臣賞を11回受賞へと導き、NHK全国学校音楽コンクールでも7回最高位を受賞されています。その後赴任された郡山高校でも最高位を受賞されるなど日本合唱界の「レジェンド」と言える方です。今回のインタビューはSVECの講評・観点に加え、いかにして優れた合唱団をお育てになっただけでいいのでしょうか?その運営メソッドを披露していただきました。

佐々木)

最初に先生が審査をなさる上での観点を教えていただけますでしょうか?

菅野先生) 以下敬称略

コンクールですから音程・リズム・ハーモニーのバランス、そして発声等、基本的な技術を第一に聴きます。特に重要視しているのは声の響きの高さ・明るさです。最近の傾向として響きの低い団体が多くなったと感じています。悲しい曲であれ、寂しい曲であれ、響きは絶対に上がっていかねばならない。これが鉄則だと思います。

そして、次に芸術的な観点。審査員として、また聴衆として「風景、情景を見せてくれる演奏」に出会ったとき心から嬉しくなります。そして、それが色彩豊かで、冷たかったり暖かだったり……。審査員席にしながら「この団体の皆さんは本当に素晴らしい練習、活動をしてこられたのだな」と感心してしまいます。

人間は色々な声を持っています。その色々な声を使うべきところで使う。作品は様々な声求めてきます。良い声だけで曲を作ろうとすれば必ずモノトーン、単一のカラーになってしまいます。人間が発することができる声は全部音楽の音として使えるというのが私の持論です。「この声とこの表現が、こう言ったほうが、こういう風に語ったほうが絶対に相手に伝わるはずだ」ということを恐れずに研究し続けることが大事。

佐々木)

その研究をどのようになさっているのでしょうか?

菅野)

自分で歌い、演奏し、試します。私自身が合唱団員として現在も舞台上に立っています。理事長を務める福島県楽友協会合唱団は約30年の歴史がありますが、音楽の教員が中心の合唱団です。その活動で歌い手の気持ちを認識しなおします。すると指導者としての立場から演奏家に立ち戻れる。

佐々木)



指揮活動だけでは、忘れがちになる様々なことを、御自身が歌うことによって思い出すということでしょうか?

菅野)

再確認をするということですね。指揮者は指揮を振りはじめると「音」が聴こえなくなることがあります。一生懸命振っている指揮者のほうが実は音楽を聴いていないことがあります。冷静に音楽及び合唱団員と向

き合うということが必要です。決まりきったことを一緒に舞台で行うというよりも、そこにしかない、その時その場所で生まれる音楽と一緒に楽しめているかが重要だと思います。

佐々木)

先生がいかにして優れた団員を育てていらっしゃるかを伺いたいのですが。

菅野)

指導者が導き過ぎる、手を引き過ぎると団員自身で考える力が弱くなってしまいます。手を放して「自分たちで自由にどうぞ」と言った瞬間に何か新しいことが始まります。

安積女子高校時代、活動時間の多くを生徒に任せていました。生徒は私が一歩引くと一歩近づいてきてくれる。郡山高校では生徒たちが「先生お願いします」と言ってくるのを音楽準備室で待っていました。しかし、なかなか呼びに来ない。自分たちで納得がいくまで音楽を作らないと呼びに来ないのです。内心「早く呼びに来なさいよ!」と思いましたが(笑)、辛抱強く生徒たちの「納得」を待ちました。「先ず自分たちで考える」そのポリシーがあの子たちの音楽的強さだったかもしれないですね。

先輩・後輩の関係の強化も重要です。

「人はここまで優しく辛抱強くなれるのだな」と思うほど、先輩は後輩を長い時間をかけて導きます。2小節くらいのフレーズを褒めながら、優しく注意しながら1時間、長いときは2時間導き続けるのです。暖かく、優しく。休みの日に家に呼んで導く先輩もいました。私にはできないことだと思います。そこで生まれる先輩・後輩の信頼と絆は当然強固なものになります。そして、演奏にその絆が反映される。

佐々木)

確実に導けるだけの指導力を、先輩たちは持っているということですね。

菅野)

歌い手自身は、特に若い生徒さんたちは自分で響きの高い・低いを判断するのは難しい。だから指導者が「今のその響きが良く、明るい響きだよ」とその瞬間に伝えてあげることが重要です。「この響きでなければ先生は認めてくれない」という基準を体に叩き込むことが大事だと思います。妥協せずに良いものと悪いものの基準を明確に示すことが重要。良いものと悪いものを比較し体感させることも大事。体感し定着するまで根気強く繰り返します。

安積女子高校でも他校でも赴任した最初期に良い声、良い響き、良い音楽の基準を徹底的に教えました。基準は決して妥協しません。ダメなものはダメと。しかし、良い響きや音楽が出て来た時には瞬時に褒めます。先輩が明確な基準を理解することにより後輩を短期間で見事に引き上げてくれます。

佐々木)

審査の観点のみならず合唱団運営のメソッドまで詳細に教えていただきました。指導者が演奏家の視点と感覚をもつことの重要性、声や音楽の「良し悪し」の基準を明確に提示することの大切さ、先輩後輩の絆・信頼関係の大事さなど「目からウロコ」のお話ばかりでした。長時間の審査後でお疲れでしたでしょうに、本当にありがとうございました。

インタビュー：理事 佐々木憲二

撮影：埼玉県合唱連盟



音楽に酔い、酒に酔い

# 彩の国男声コーラスフェスティバル2018

2018年10月6日(土) 於：秩父ミュージックパーク

10月6日(土)ちちんぷいぷい、秩父は良く効くおまじない！の秩父にて行われました。良いところ

です。  
今大会は今回でなんと29回を数えます。秩父という遠方にも関わらず関東各地から23団体368名(高校生47名)の参加をいただきました。

今年も男声合唱を盛り上げる為、連盟役員だけでなく、協賛のiichiko、矢尾百貨店の皆様も、全員が一丸となりました。

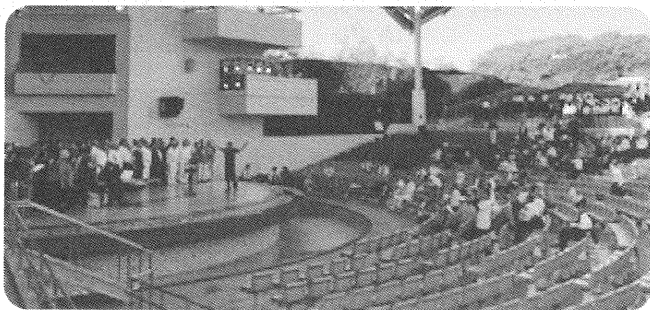
音楽堂では各団体のバラエティーに富んだ素敵で楽しい演奏が繰り広げられ、合同合唱では講師の山脇卓也先生の指揮で、昨年亡くなられた多田武彦氏の追悼も兼ね、「柳河」、「雨」を100名の合同男声合唱団で演奏。感動と共に会場も引き締められました。

その後の懇親会。野外ステージにて仲間たちと、



音楽に酒に、酔いしれました。男フェスの喜び、こ～こ～にあ～り～♪

今回は30回記念大会。ここまで続いた感謝を込めて10月5日(土)埼玉会館大ホールにてお待ちしております。みんなで男フェスの素敵な時間に酔いしれましょう。  
(常務理事 蓮沼喜文)



青く澄み渡る秋空のもとでの楽しいひととき♪

## 彩の国男声コーラスフェスティバル2019 開催告知！

1990年8月、川口市のサッポロビール川口工場にて『第1回おとうさんコーラス大会』が開催されて以来続いてきたおとうさんコーラス大会(現在は男フェス)ですが、いよいよ今年は30回目の記念大会となります。

開催初期の出演団体の方々や指揮者の先生などをお招きしたり、長期連続出演団体を表彰したり、、、心に残る思い出深い大会にしたいと企画検討中です。

### 2019年10月5日(土) 埼玉会館 大ホール

恒例の懇親会は浦和駅直結の「コルソホール」にて開催いたします。

是非大勢の皆様のご参加をお待ちしております！



## 男フェスの感想



高校生の  
みなさんも  
楽しめました



応援に駆けつけた  
女性陣

### 男声あんさんぶる「ポパイ」(いちご賞)

星野 英明 (第二部懇親会司会担当)

〈ポパイ「いちご賞」受賞!〉

この賞は、川越高校・杉並学院のような汚れなき若者（未成年）の洗練された演奏とは別に、大人の魅力を感じさせる団に送られるもの（賞品が焼酎なので成人の団が対象）だとか。

ポパイが受賞できたのはやはり歌好き&酒好きが集まった団体だからでしょう。講師の山脇先生からは、「男声合唱の良質なサウンド、見事です。自然な言葉、ルバート、正に音楽的です。シブイ!」とのお褒めの言葉を頂戴いたしました!

〈懇親会〉

ホール隣の野外ステージへ移動し、飲みや歌への恒例タイム。これが目的で参加する団体もあるとか・・・

司会進行は今回もコール・グランツの加藤団長と私が仰せつかりました。曲と指揮者だけ予め決めておいて、歌いたい人（飲みたい人は樽酒に集まる）がステージに上がり歌う方式で進行。二時間弱の間、しっかりと飲み食べ歌えたと思います。連盟の方々のご協力もあり例年以上に盛り上がった会となりました。有難うございました!



### 杉並学院グリークラブ (特別賞)

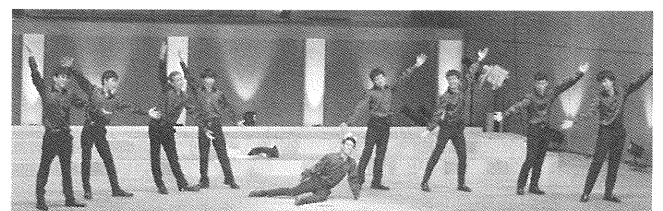
代表 小島 僚哉

私たちは一昨年ぶりに、この彩の国男声コーラスフェスティバルに参加させていただける機会ができ、とても楽しみにしながら練習しておりました。今回は「アタックNO.1のテーマ」と「行けタイガーマスク」の昭和を代表するアニメソングを演奏させていただきました。アニメの世界観を出すために、実際のアニメを参考にしながら、歌や振り付けを練習しました。

本番当日を迎え、会場に入ると、男フェスならではの熱気に私たちもより気持ちが熱くなってきました。そして、舞台に立つと、大勢の観客の方々に驚きとともに喜びを感じ、楽しく演奏することができました。また、他の団体の演奏をお聴きして男声合唱をやる上で勉強になることがとても多かったです。その後「特別賞」をいただき、すごく嬉しかったと同時にここまで支えてくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

川越高校さんとの合同ワークショップは、山脇先生のわかりやすいご指導でとても学ぶことができました。音の取り方、ハーモニーの作り方等々、今までやったことない練習方法があり、現在の練習の中で取り入れております。

とても学びが多く、楽しかった1日でした。本当にありがとうございました!



撮影：埼玉県合唱連盟



# 今年もキラキラ 第42回 全日本おかあさんコーラス 埼玉県大会

(第44回おかあさんコーラス埼玉県大会)

2019年3月2日(土)・3日(日)

於：和光市民文化センター サンアゼリア



連続20年、通算30回以上参加団体の表彰で、  
さらに楽しく盛り上がり、華やかな大会となりました。

## 【講師の先生方 温かいアドバイスをありがとうございます】

### 【小原 孝先生】



感動的であったという  
間に終了しまし  
た。皆さん姿勢  
も若々しいです。  
言葉が伝わるこ  
と、を意識して歌  
ってください。

### 【なかにしあかね先生】



歌を人生に持ってい  
るということは、  
人間性が豊かに  
なります。テク  
ニクは練習す  
れば良いけれど、  
皆さんは総合した美  
しさがあると感じました。

### 【横山潤子先生】



明るく、清潔感があ  
り、声が若々しい  
です。心地良い  
だけではなく気  
持ちよく歌って  
いて、楽しさも伝  
わってきました。

平成31年3月2日、3日和光市民文化センター大ホールにて「第42回全日本おかあさんコーラス埼玉県大会」を開催しました。本大会にご支援いただきましたキューピー株式会社を始め、関係各位に感謝いたします。埼玉県大会は44回目を迎えました。数多く参加していただいている団体に、感謝の心を込め、ステージでの表彰をさせていただきました。

また、和光市ゆかりの日本を代表する童謡詩人「清水かつら」の作品「みどりのそよ風」を2部合唱で歌い、会場にはさわやかな歌声が響きました。

初日は招待演奏「彩の国プラチナ混声合唱団」が、大合唱で迫力ある合唱を披露し大会を盛り上げていただきました。

来年度もさらに、参加者が「参加して良かった」と充実感を得られるような大会を目指し、努力してまいります。  
(常務理事 大館直美)



## 第42回全日本おかあさんコーラス関東支部大会推薦団体

2019年7月6日(土)・7日(日)

於：神奈川県横須賀市／よこすか芸術劇場

### 〈埼玉県の出演団体〉

6日(土) コーロ・プリランテ、ドマーニ、ソット・ヴォーチェ、コーラル・デイズ、  
コーラル・クローバー、ピアチェーレ

7日(日) 蕨女声合唱団、コーラル・ソシア、浦和ブルーコーラス、浦和女声合唱団、  
大宮コール・ヴァイオレット、女声合唱団「曙」、女声合唱団 悠はるか

(関東支部大会出演順に掲載)



撮影：スタッフ・テス様





# メゾは架け橋



前回のアルトに引き続き、今回はソプラノとアルトの間でいつも音の架け橋として活躍されているメゾソプラノの皆さんに登場していただきました。



メゾってどんな存在ですか？

- ハーモニーを創る、なくてはならない存在
- 和音の調整をしている大切なパート
- メゾはあんこ、ケーキの中の生クリーム
- 難しいけど楽しい
- ソプラノとアルトの繋ぎ目として大切な存在
- おいしいパート、ハーモニーの真ん中にいられる



他のパートの方から...

- 頭がよくて、優しくて、まとまりがいい！
- きれいに音を当ててくれると嬉しい
- もっと、もっと華やかに
- 細かく寄り添っていてください
- もっと主張して
- いつも調整役でいてくれてありがとう



## ハートフルエピソード

90歳を過ぎたお姑さんとお嫁さんが、同じ団で仲睦まじく活動されていました。親子で同じ団に所属の方もいらっしゃいます。世代を超えて同じ歌を歌うって、心が温まります。

インタビュー：理事 大館雅子、理事 小林とせ子  
撮影：埼玉県合唱連盟



# 世代別合唱団事情

合唱とのお付き合いは、年齢を重ねていくその時々において、多角的にアプローチすることにより、一生を通じての人生の伴侶となっていくのではないのでしょうか。

今回は、『小学生』『ユース』『一般混声』合唱団の皆様からお話を伺いました。

## 練習の頻度

- 小学生** 週3回
- ユース** 月2回（本番直前は週1回）
- 一般混声** 週1回

## 練習の時間帯

- 小学生** 15:45～17:00
- ユース** 18:00～21:00
- 一般混声** 18:30～21:00

## 練習の「やりがい」は何ですか？

- 小学生**
  - ・発表や演奏会で全員が達成感を味わえた時。
  - ・合唱部保護者の協力が得られていると感じた時。
- ユース** 大学生や社会人になり、各々が多岐にわたる分野で活躍している話を聞きながら、部活動で頑張ってきた当時の楽しさを思い出しつつ活動している。
- 一般混声** ハーモニーするだけでなく、練習を重ねて私たち独自の音色、表現が生まれること。その結果、良い演奏だったと感想をいただいたり、コンクールでの評価につながることに。

## 大切にしていることは？

- 小学生**
  - ・全員で毎年めあてを考えて歌うこと。
  - ・異学年との関わり（異学年ペアをつくって練習する等）
- ユース**
  - ・若い10代が頑張ることで学生の皆様にも「合唱は部活だけでなく、卒業後も生涯にわたって楽しめるものである」ということを感じて欲しい。
  - ・独りよがりにならないよう、他団体の演奏を聴くなどして、客観的な視点を忘れないようにしている。
- 一般混声** 会員相互の親睦を大切にしながら、より高い水準の音楽表現を実現すること。

## 困っていることは？

- 小学生**
  - ・児童の合唱部以外の習い事（塾など）が増えてきていること。
  - ・土曜日練習など入れないと、コンクールなど間に合わないこと。
- ユース**
  - ・団員が各々の都合で集まらず、練習が思うように進まない。
  - ・発声、音色、ハーモニー、言葉の処理等、様々な要素がある中、何を重視し、どのように表現していく事が良いのか悩むことが多い。
- 一般混声** 学生時代に合唱を楽しんだ方々が、一般の合唱団になかなか戻ってきて頂けないこと。仕事や家庭が落ち着いたら、一般合唱団もぜひ見学に来てください！



## Tact vol.27



指揮者 三好 草平

県立不動岡高校で合唱を始めてから24年、Canto di Alaudaで指揮を始めてから15年が経過しました。埼玉で合唱のキャリアをスタートした私ですが、2005年に東京都合唱連盟事務局を手伝うようになった頃から主たる活動地域が東京に移っていき、現在では埼玉2団体、東京9団体を指揮、更に今年の2月には富山で新たに女声合唱団を立ち上げました。

東京での指導団体で一つの核となるのが「継続性のある企画型合唱団」です。これは「〇〇の本番で●●を演奏するから、やりたいひと寄っておいで」という「このゆびとまれ」形式で人を集め、本番ごとに解散するスタイルの合唱団で、通常の常設合唱団のような入団・退団のような概念がないためより気軽に参加し

てもらえるというメリットがあります。もちろん運営する側は毎回どれだけの人が参加するかの予測が難しいのですが、参加側のハードルを下げることに一定の効果を感じています。

☆

私が指導するこうした合唱団は現在4団体ありそれぞれのコンセプトで人集めを行っていますが、中でも白浜坂高校合唱同好会は特殊で、2012年に放送された合唱アニメ「TARI TARI」をきっかけとしています。このアニメに私が合唱協力という名義で関わったのですが、劇中歌である合唱曲「心の旋律」(カワイ出版刊)が良い作品であったため、これを東京都合唱祭で歌おう、という企画を立てました。その時にはなんと167人も集まり、しかもそのうち半数は初めて合唱をする人たちでした。それから丸5年が経過し、昨年9月には待望の単独演奏会を所沢ミュージック アークホールで開催するに至りました。この間に白高同好会で合唱を始め、もしくは再開し、他の団体で継続的に合唱をするようになったメンバーも多くおり、うれしい限りです。

☆

☆

☆

☆

また、2016年の12月より“もっと気軽に、上質な合唱体験を”をコンセプトに主宰公演「小さな夜の音楽会」(正味1時間)をスタートし、昨年までに8回実施。本年には5回をすでに計画しており、おかげさまで演奏会そのもののファンとなってくださるお客様も多くいらっしゃいます。

合唱連盟に関わるようになってから感じるが多くなった「もっと多くの人に合唱の楽しさを知ってほしい」を一つの合言葉に、様々な可能性を探り続けています。

## それぞれの周年記念

50周年

コール・ソアール

代表 池田 まゆみ

昨年の7月8日和光市サンアゼリア小ホールにて50周年記念コンサートを開催しました。発足以来母親コーラス交流会や県合唱祭、おかあさんコーラス大会、コーラスフェスティバルなどに参加し、15、20、30、40、と周年記念コンサートを開催してきました。

長い間活動を続けてこられたのは、創立以来情熱を持って根気よくご指導してくださっている武先生、素敵な伴奏で私たちを支えてくださっている利根川先生、地域の皆様のご支援、そして家族の理解と協力のおかげと感謝しております。

今回はコール・ソアールが長年にわたり大切に歌い続けてきた曲や新しい曲、武先生との共演など心を込めて演奏しました。

メンバーとの悲しい別れや新しい出会いなどさまざまなことがございましたが、いつも和気あいあいと歳を重ねてまいりました。「歌って唄って50年」、創立時からのメンバーと少し若いメンバーが全員揃って歌うことができた喜びは格別でした。

これからもコール・ソアールの和やかな雰囲気大切に、皆が健康で楽しく歌い続けていかれますように願っています。





## ♪ 私たちの場所

## Stage

### 松伏高等学校合唱部

部長 高橋 ふみ

私達合唱部は、普通科8名、普通科情報ビジネスコース3名、音楽科16名の、計27名で明るく元気に活動しています。

合唱部は主に、入学式や卒業式、文化祭などの校内行事や、地域からの依頼演奏などにも積極的に参加させていただいています。また、毎年夏に行われる合唱部定期演奏会では、合唱だけでなく、ダンスやミュージカルにも挑戦し、幅広いジャンルの曲を演奏しています。

今年度、第14回合唱部定期演奏会は7月20日土曜日、田園ホール・エローラにて開催いたします。ミュージカルステージでは、2018年爆発的に大ヒットしたミュージカル映画、グレイテストショーマンを上演いたします。是非、足を運んでいただけたら幸いです。

### 朝霞市立朝霞第十小学校合唱団 うたの輪

団長 岸 真緒

朝霞第十小学校合唱団「うたの輪」は、歌うことが好きな3年生から6年生49名が活動しています。主な活動内容は、各月の音楽朝会の退場曲演奏、地域の演奏会参加、合唱コンクール出場等です。週に二日程度の練習ですが、合唱曲への取り組みはもちろん、基礎トレーニングや発声練習を取り入れながら行っています。学年は違いますが、上級生は下級生にアドバイスをしたり、みんなで決めた目標に向かって取り組んだりしているので、絆が深まり団結力があります。その団結力を生かして、合唱コンクールや演奏会などで美しい歌声を届けられるよう頑張りたいと思います。

### 豊扇歌

代表 原 由香里

『豊扇歌』は、さいたま市立指扇北小学校合唱部保護者有志により発足し、2015年9月から活動を開始しました。グループ名には、“緑豊かな指扇地域に歌声があふれるように”という皆の願いが込められています。メンバーは、指扇北小学校の在校生と卒業生の保護者で構成されており、加藤愛子先生には、親子でお世話になっています。ほとんどが初心者なので、声の出し方や口の開け方など、細かいところから熱心にご指導いただいています。子育て、仕事、親の介護など日々忙しく過ごしている私たちが唯一自分のためだけに使える時間が『豊扇歌』であり、『豊扇歌』があるから、日々頑張れる！そんな私たちの場所です。

### 本庄東高等学校合唱部

部長 毛利 暖

私たち、本庄東高校合唱部には、大切にしている考え方があります。それは、「感謝の心」を持つことです。

私たちは思うのです。ステージに立てること、それを当たり前の事だと思ってしまういけない、と。イベントを催してくださる方々、応援してくださる方々、合唱部の礎を築いてくださった先輩方、指導してくださる先生方、そして一緒に歌ってくれる仲間たち。関わる全ての人々に感謝の気持ちを持って初めて、素晴らしいステージを作り出すことが出来ると私たちは信じているのです。

これからも私たちは「感謝の心」を忘れず、聴いてくださる方々の心に響くハーモニーを奏でることが出来るよう、精進して参ります。

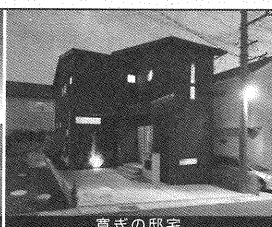
ツイッター始めました。  
@scl\_from1957  
フォローお願いします♪

編集  
後記

Pause第50号をお届けいたします。全日本合唱コンクール全国大会報告等と、今回は新進気鋭の作曲家川浦義広さんへのインタビューの様子をお届けしました。お楽しみいただけたでしょうか。今後も皆様の豊かな合唱ライフのお手伝いをします。  
(理事 浅子 元)



アドバンスドブレイス船橋・北習志野



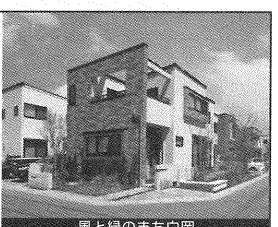
寛ぎの邸宅



古民家（はかり家）



庭廊（二口）の私邸



風と緑のまち白岡



GOOD DESIGN  
AWARD 2018

グッドデザイン賞 5作品同時 受賞

16年連続 受賞



50th  
ANNIVERSARY  
おかげさまで50周年

住まい価値創造企業  
POLUS  
ボラスグループ

※完成予想図は図面を基に描き起したもので実際とは多少異なります。

ボラス株式会社 埼玉県越谷市南越谷1-21-2 TEL048-989-9119 (宅建業 国土交通大臣(12)第2401号(株)中央住宅)